

2011～2012年度 R.I.テーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために



R.I.会長 カルヤン・パネルジー
 事務所 飯田市常盤町商工会館2F
 ☎23-3430 FAX23-3433
 URL:<http://www16.ocn.ne.jp/~rotary/iidarc/>
 E-mail:iidarc@titan.ocn.ne.jp
 例会日 毎週水曜日 PM12:30～13:30
 例会場 シルクホテル ☎23-8383
 会長 濱島光男 幹事 島中 實

会報

2011.7～2012.6 No.3
MONTHLY REPORT

11月号

見直そう、未来に向けて！



◆晩秋の上村

南アルプスの懐深く、自然を身近に体験できるふるさと飯田の環境は、他に誇るものがあります。立冬が過ぎて冬本番を迎えるとき、山は最後の美しさを纏って永い眠りに付こうとしております。特に鮮やかな紅葉ではありませんが、遠景の紫に映えて落ち着いた美しさを感じます。しらびそ峠手前の林道から遠山谷、遠くは中央アルプスを望みます。

《写真撮影：杉本 進》



ひこうき雲

園原 秀明

上空 30,000フィート、真っ白な雲をたなびかせながら飛行機が飛んでいく…

きっかけは定かではないが、いつの頃からかどこにでもいる男子にありがちな「乗り物好き」のはしくれになっていた。旅行でたまたま行った飛行場で離陸・着陸を繰り返す航空機を見て以来すっかり「飛行機」にはまっていた。飛行場に飛来する航空機を見ながら「あのマークの航空会社は?」「ジャンボジェット?」など興味は尽きない。業界雑誌などで必死で覚えた。ある程度知識がついてくると次は、機体を「写真」に収めたい。以前はカメラ機材が高価であり、今のようにデジカメで撮って家庭で手軽にプリントできない時代。フィルム、現像代もばかにならない。しかし、それでもがんばってカメラを購入し撮影した。見慣れた機体から始まって、時にはめったにお目にかかれぬ機体と遭遇し嬉しくて心臓ドキドキでシャッターを押したことが何度もある。

この「飛行機好き」は更にヒートアップする。次は、当然「乗る」ことである。こればかりは、そうそう機会があるものではなく実現は限りなくハードルが高かったが、「職場の旅行」「同級生の厄落ツアー」等積極的に幹事役を引き受け、無理やり行き先を飛行機でないと行けない場所に。こうして、年に1~2回程度憧れの飛行機に乗る機会を得た。極秘だが機内では、持ち帰れるものはすべて持ち帰った。機内誌は当然、ナイフ、フォーク、調味料、果てはブランケット!?



また、当時は「コックピット」見学が可能であり当然そこを見学したことはいうまでもない。その後もこの道楽はエスカレートして現在進行中。

最近の大きな出来事は、偶然松本空港で飯田ロータリークラブのグレートキャプテン春原氏にお会いできたこと。これもまた劇的であり新たな1ページとなった。

こうして原稿を書いている時期に次世代旅客機ボーイング「787」がついに日本にやってきた。またまた、飛行機好きの虫が騒ぎ出した!

秋空の中を今日もひこうき雲がきれいにたなびいている…



下伊那グループ親睦ゴルフ大会

田代 深志

飯田下伊那地区の5つのロータリークラブが合同で親睦ゴルフ大会を開催したのは約20年ぶりだそうです。11月6日(日)の高森カントリークラブの天候は朝から深い霧に包まれ、キャディさんの指示に従ってほとんど見えないフェアウェイの「およそあの方向へ…」というティーショット。「〇〇番グリーン空きましたあ…」という声を頼りにアイアンショットという状況でした。あるクラブでは海外友好クラブへの親善旅行が設定されていたこともあり当日の参加者は合計35人とやや少な目でした。飯田ロータリークラブからは杉本進さん、片瀬俊紀さん、太田英行さん、それに田代の4名が参加し他クラブの会員と親睦・交流を図りましたがスコアのほうは霧と午後からの雨に苦しめられいまいとつでした。優勝はグロス90、ハンディキャップ18(ダブ

ルベリア) ネット72の飯田南RC片山哲夫さん、グロス部門ではあの悪天候にもかかわらず松川RCの小澤文人さんが74の好スコアをたたき出しました。プレー後はクラブハウスで表彰式を行い楽しいひと時を過ごしました。宮沢ガバナー補佐によりますと来年も5クラブ親睦ゴルフ大会を実施したいということで、幹事クラブは下伊那グループの次期ガバナー補佐を送り出す飯田RCということです。



最近私は学問といふものがいやになりました。東大の伊藤元重いとうもとしげといふ教授はTPPの件について次のやうに述べてみます。

「市場を閉鎖して健全な経済発展をした国は歴史的には皆無である」と。現在の日本が市場を閉鎖してゐるといふならば、あのリーマンショックによってなにゆゑに日本が大打撃を受けたのか。ギリシャの破綻によりなにゆゑに日本があわてふためくのか。分かり易く教へてもらいたいものです。これが学問なるものの正体だと思ふといやになりました。

(11月号担当: 近藤政彰)